

令和6年度 体罰に関する意識調査結果

1 目的

令和2年4月に改正児童福祉法等の施行により体罰禁止が法定化されたことを受け、神奈川県児童相談所において体罰未然防止に係る様々な事業を行った。

事業実施による普及啓発効果を検証するため、昨年度に引き続きインターネットによる意識調査を実施した。（今回で5回目）

2 対象

神奈川県民（インターネットにアクセスし、回答した人）

3 調査期間

令和7年1月24日（金）から同年2月25日（火）まで

4 方法

神奈川県中央児童相談所のホームページにアクセスし、性別、年齢及び以下5つの質問に回答（個人のパソコン、タブレット、スマートフォンで回答）

児童相談所、市町村児童福祉主管課、所管保育所等でのポスター掲示、児童相談所公式 X（旧 Twitter）でのツイート、子ども家庭110番相談 LINE プッシュ機能通知等を活用し周知を行った。

質問1 体罰が法律で禁止されたことを知っていますか。

質問2 しつけのために子どもを叩くことは必要だと思いますか。

質問3 体罰が子どもに与えると考えられる影響を知っていますか。

質問4 体罰以外のしつけの方法を学びたいと思いますか。

質問5 子どものために必要なしつけとは、どのような方法で行うことだと思いますか。

数値の見方 本文及びグラフの数値は、その表章単位に合わせて計算された数値を四捨五入しているため、合計と内訳の数は必ずしも一致しない。

5 集計結果と分析

体罰禁止に関する認知度（質問1に「知っている」と回答した人の割合）は **69.7%** で、**令和5年度調査（70.6%）と比較し0.9ポイント減少した。**

体罰の容認度（質問2に「そう思う」と回答した人の割合）は **3.3%** で、**令和5年度調査（4.0%）と比較し0.7ポイント減少した。** 性別では**女性**が、年齢別では**30代**が体罰を容認する傾向が見られた。（令和5年度は、性別は男性が、年齢別は20代が最も高かった。）

子どもへの影響の認知度（質問3に「知っている」と回答した人の割合）は **59.5%** で、**令和5年度（55.0%）と比較し4.5ポイント増加した。**

体罰以外の方法を学ぶ意欲に関する割合（質問に4に「そう思う」と回答した人の割合）は **66.2%** で、**令和5年度（64.9%）と比較し1.3ポイント増加した。**

「子どものために必要なしつけ」（自由記載回答）については、いずれの性別、年齢においても「体罰以外の方法」という回答が多かった。次いで多かったのは、男性では「状況により体罰は必要」で、女性では「わからない、悩む、難しい」が多かった。年齢別では、0歳～19歳が「自分自身が体罰を受けていた」、20歳～29歳が「状況により体罰は必要」、30歳～39歳が「わからない、悩む、難しい」、40歳～49歳が「わからない、悩む、難しい」、50歳～が「子どもにより異なる」「保護者への支援が必要：「日頃のコミュニケーション・スキンシップが必要」であった。（いずれも「その他」を除く）

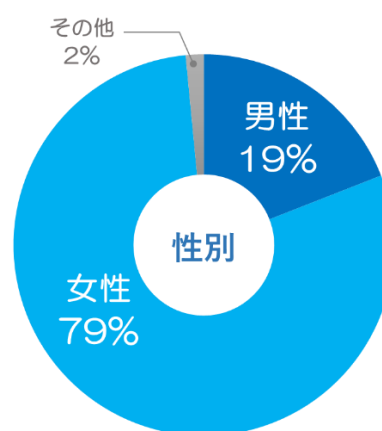
① 回答者集計

回答者数：1,117人

■性別

性別	人数	割合
男性	212人	19.1%
女性	883人	79.4%
その他	17人	1.5%
総計	1,112人	

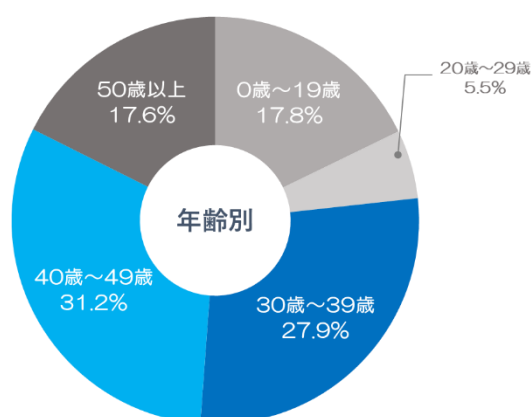
グラフ1



■年齢別

年齢	人数	割合
0～19歳	199人	17.8%
20～29歳	61人	5.5%
30～39歳	312人	27.9%
40～49歳	348人	31.2%
50歳以上	197人	17.6%
総計	1,117人	

グラフ2



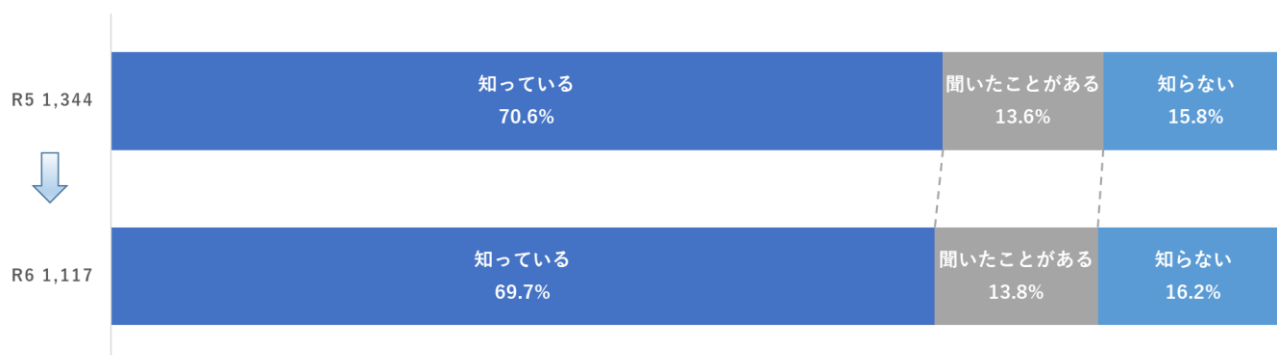
②各質問への調査結果

各質問への回答について、質問1～質問4については昨年度との比較、男女別の比較、年齢別の比較を行った。

質問5については、回答を17項目のカテゴリーに分類し、性別、年齢別の回答傾向を出した。

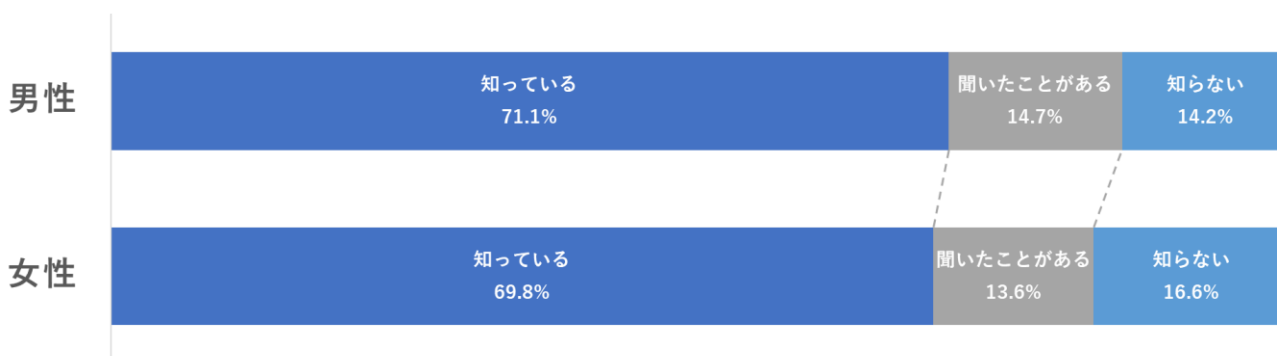
質問 1 体罰が法律で禁止されたことを知っていますか。

グラフ3 令和5年度との比較



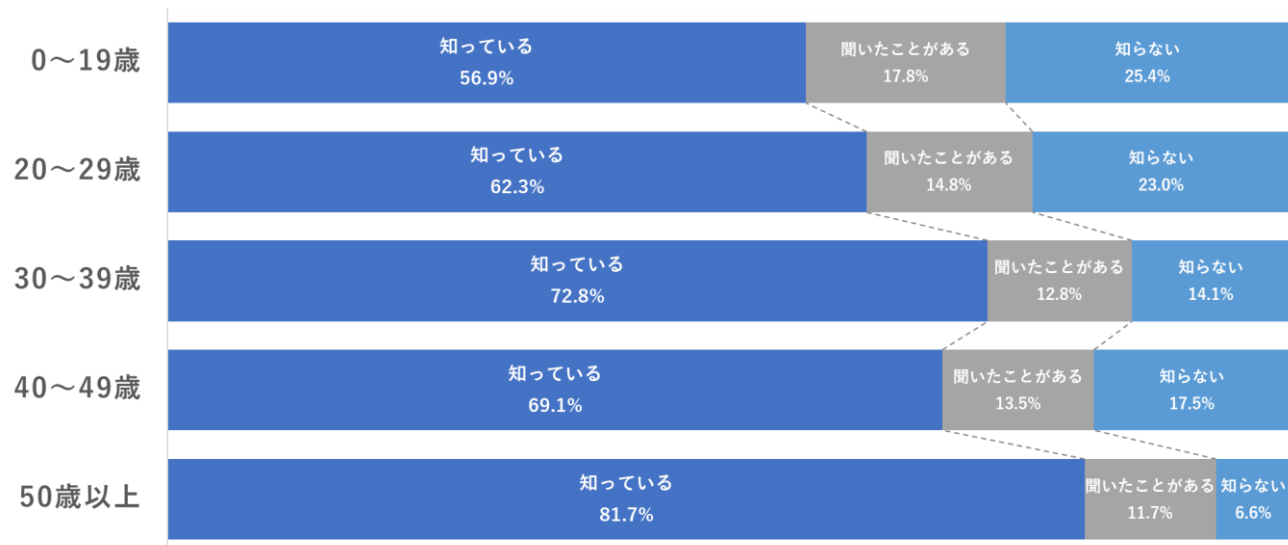
「知っている」の割合を比較すると令和6年度では0.9ポイント減少している。

グラフ4 性別と認知度の関係



性別では、男性の方の認知度が1.3ポイント高い。

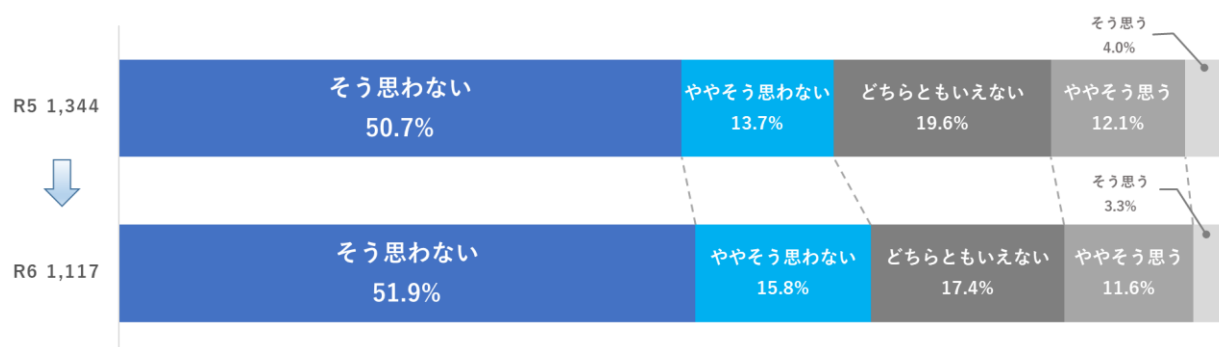
グラフ5 年齢と認知度の関係



年齢別では、50歳以上が「知っている」の割合が最も高く、10代が「知らない」の割合が最も高い。

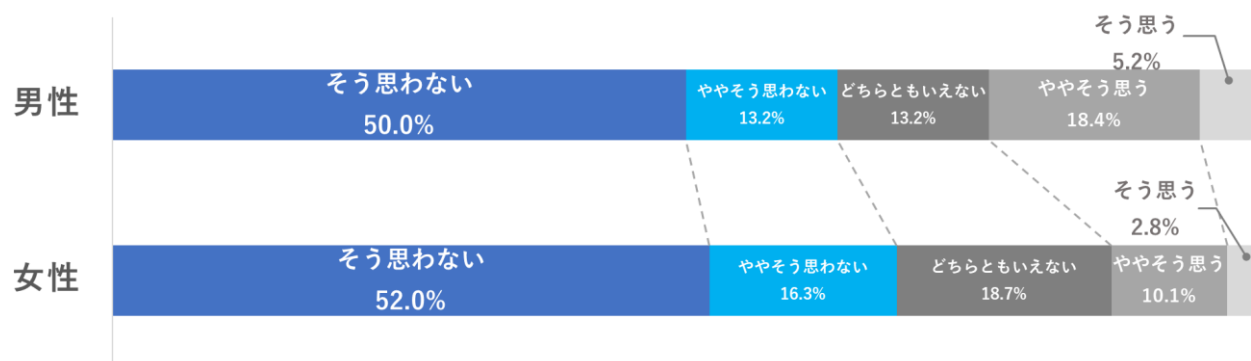
質問2 しつけのために子どもを叩くことは必要だと思いますか。

グラフ6 令和5年度との比較



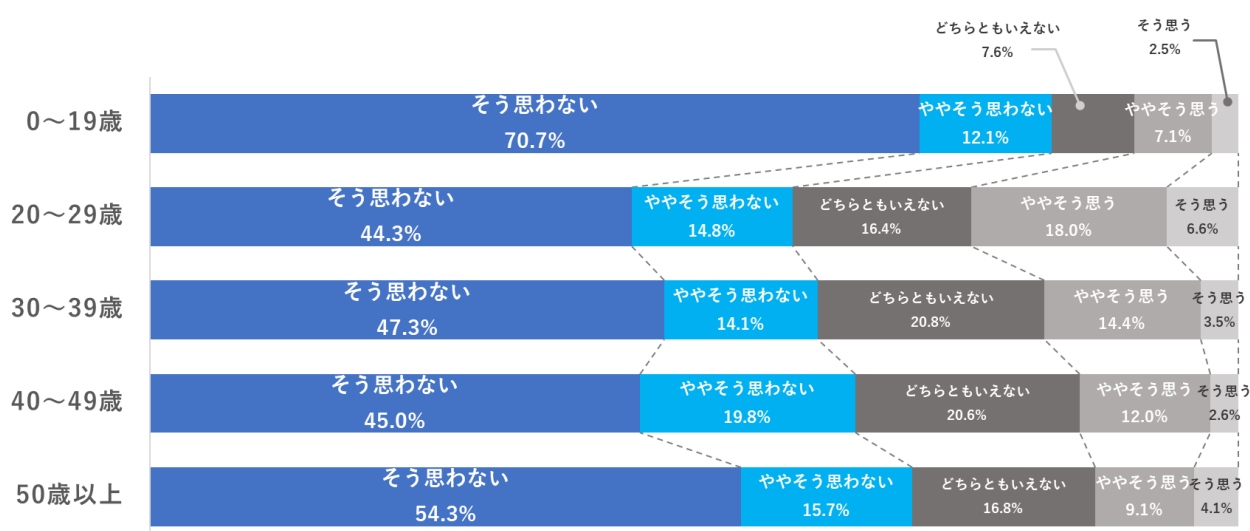
令和6年度では、「そう思わない」の割合は1.2ポイント上昇している。

グラフ7 性別と体罰容認の関係



「そう思う」の割合は、男性の方が2.4ポイント高い。

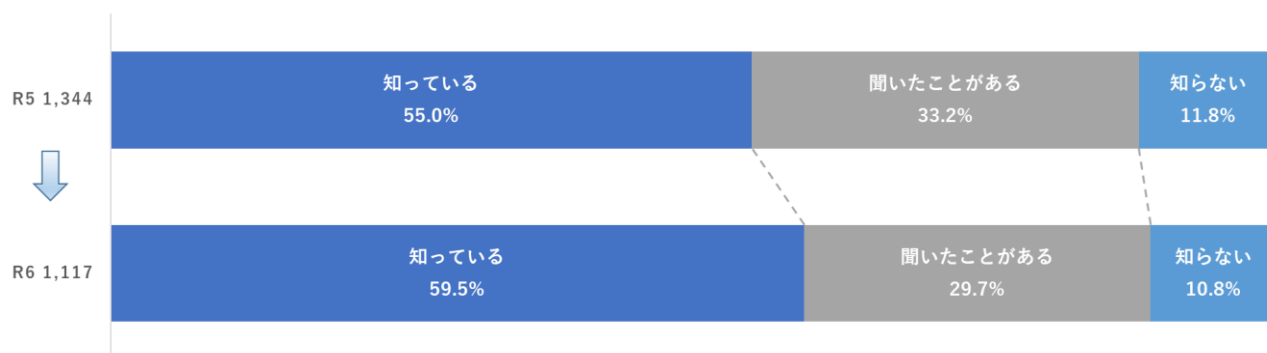
グラフ8 年齢と体罰容認の関係



「そう思う」の割合は20代で最も高く、「そう思わない」の割合は10代で最も高い。

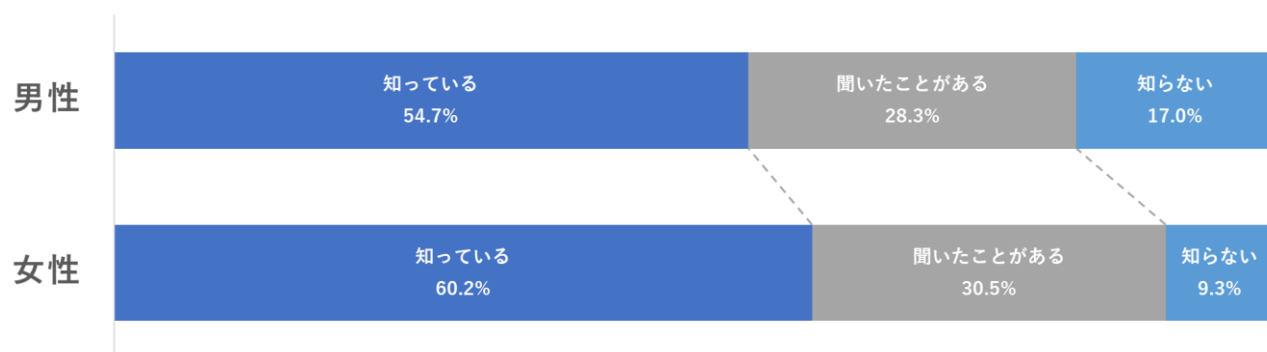
質問3 体罰が子どもに与えると考えられる影響を知っていますか。

グラフ9 令和5年度との比較



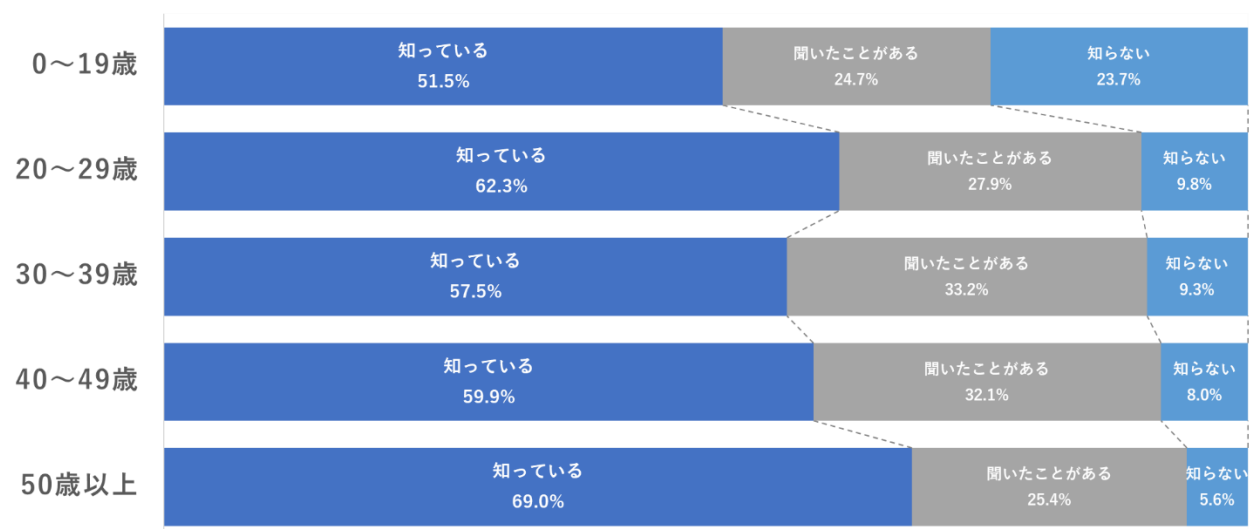
令和6年度では、「知っている」の割合は4.5ポイント上昇している。

グラフ10 性別と認知度の関連性



「知っている」の割合は、女性の方が5.5ポイント高い。

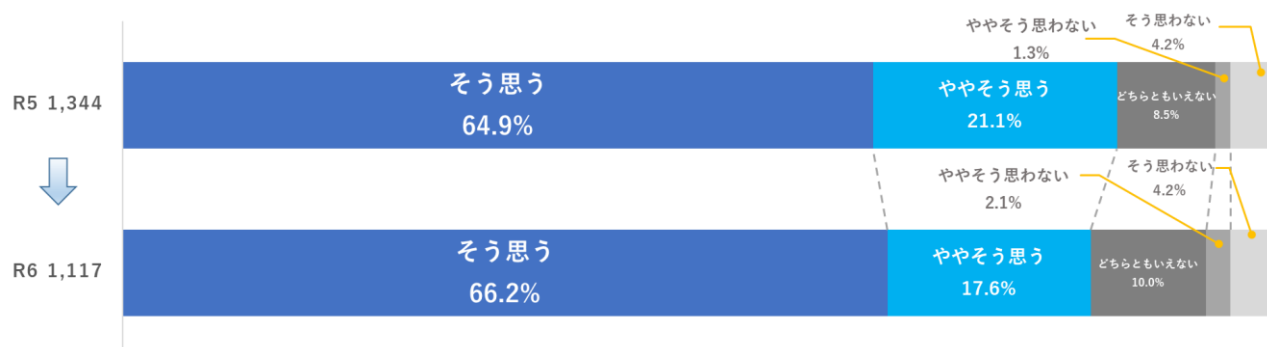
グラフ11 年齢と認知度の関連性



「知っている」の割合は50歳以上で最も高く、「知らない」の割合は10代で最も高い。

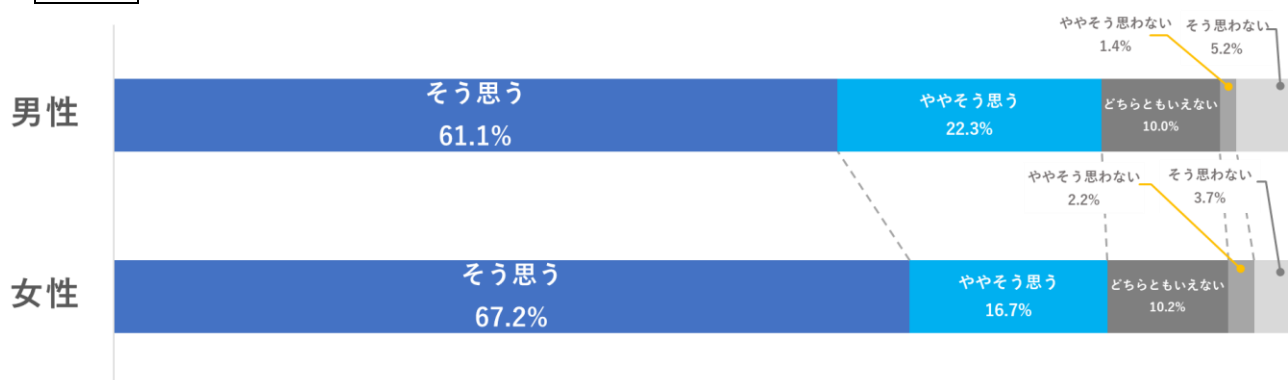
質問4 体罰以外のしつけの方法を学びたいと思いますか。

グラフ12 令和5年度との比較



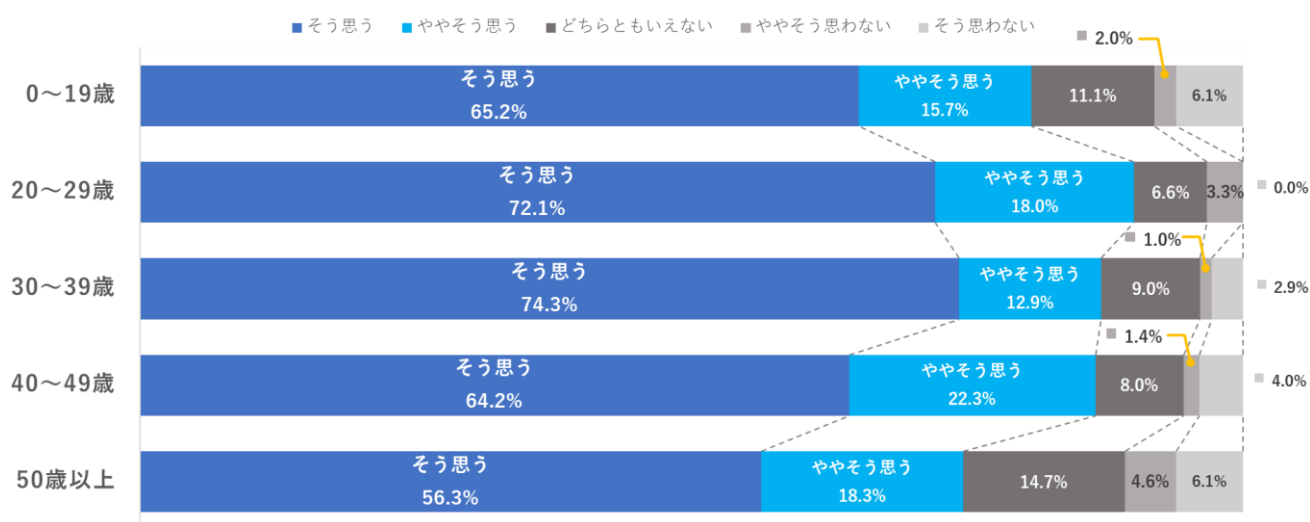
令和5年度と比較すると、令和6年度では「そう思う」の割合が1.3ポイント上昇した。

グラフ13 性別と体罰以外のしつけの方法を学ぶ意欲との関連



「そう思う」の割合は、女性の方が6.1ポイント高い。

グラフ14 年齢と体罰以外のしつけの方法を学ぶ意欲との関連



「そう思う」の割合は30代で最も高く、「そう思わない」の割合は10代と50歳以上で最も高い。

質問5 （自由記載）子どものために必要なしつけとは、どのような方法で行うことだと思いますか。

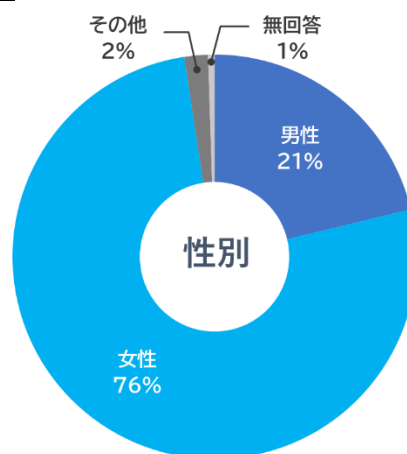
（1）自由記載の回答数：584 件

ア 上記回答者の内訳

■ 性別

グラフ 15

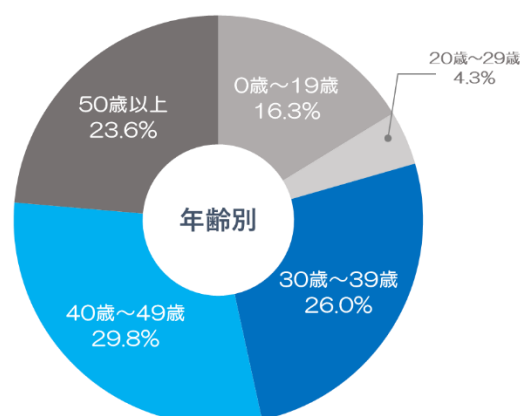
性別	人数	割合
男性	124 人	21.2%
女性	446 人	76.4%
その他	11 人	1.9%
無回答	3 人	0.5%
総計	584 人	



■ 年齢

グラフ 16

年齢	人数	割合
0～19 歳	95 人	16.3%
20～29 歳	25 人	4.3%
30～39 歳	152 人	26.0%
40～49 歳	174 人	29.8%
50 歳以上	138 人	23.6%
総計	584 人	



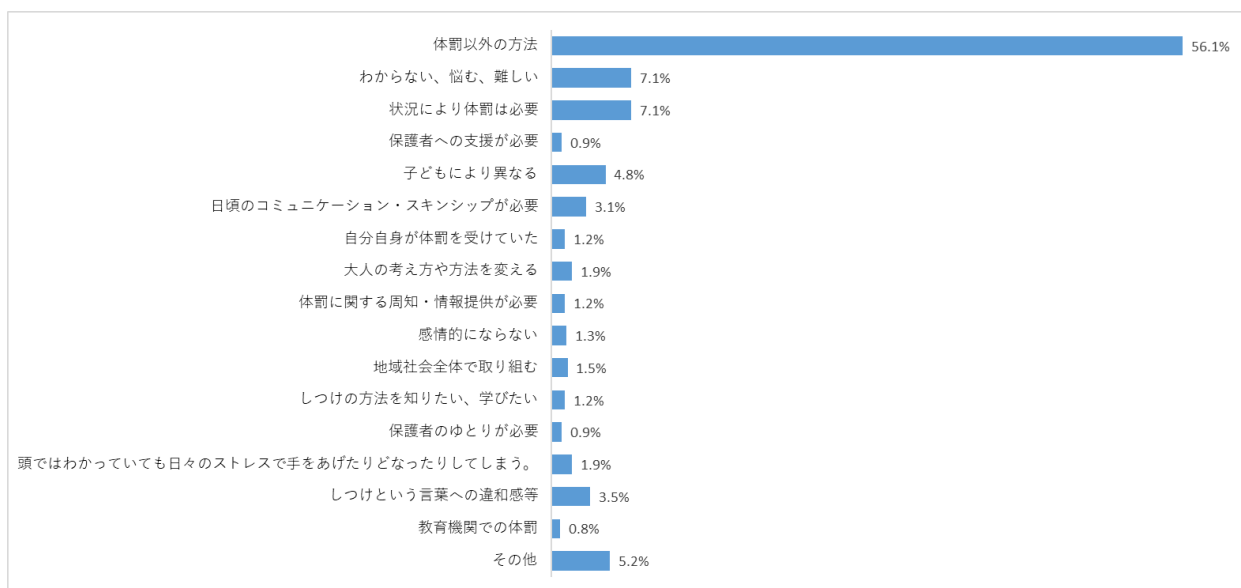
イ 上記回答の内容を以下 17 のカテゴリーに分類

- ①体罰以外の方法
- ②わからない、悩む、難しい
- ③状況により体罰は必要
- ④頭ではわかっているけど日々のストレスで手をあげたりどなったりしてしまう。
- ⑤保護者への支援が必要
- ⑥日頃のコミュニケーション・スキンシップが必要
- ⑦体罰に関する周知・情報提供が必要
- ⑧感情的にならない
- ⑨大人の考え方や方法を変える

- ⑩しつけの方法を知りたい、学びたい
- ⑪地域全体で取り組む
- ⑫保護者のゆとりが必要
- ⑬しつけという言葉への違和感等
- ⑭子どもにより異なる
- ⑮自分自身が体罰を受けていた
- ⑯教育機関での体罰
- ⑰その他

ウ 上記イの内容をカテゴリー別に集計

グラフ17



最も多い「体罰以外の方法」の具体的な内容は、以下のとおり。

- ・1人の欲望のためではなく多数の幸福のためにルールを決めて守ること、互いが気持ちよく過ごせるためにマナーや慣習を守ること、これらを説いて相互理解の上に必要なことを実行させること。
- ・優しい言葉が必要
- ・口頭で繰り返し伝える
- ・ご褒美をあげる
- ・こどもがわかる方法で、遊びや生活の流れの中で身につけられるように教える
- ・やっていいこと、いけないことについて、そのこどもに理解できる言葉や方法(イラスト、動作など)で、教えていく。
- ・ほめるだけでなく、ダメなことは子どもに伝わるように伝える、メリハリのあるかわり方をする。
- ・まずは大人が手本であること 子どもに届きやすい短い言葉で 根気よく繰り返す 平常心で 場所を変えるなど

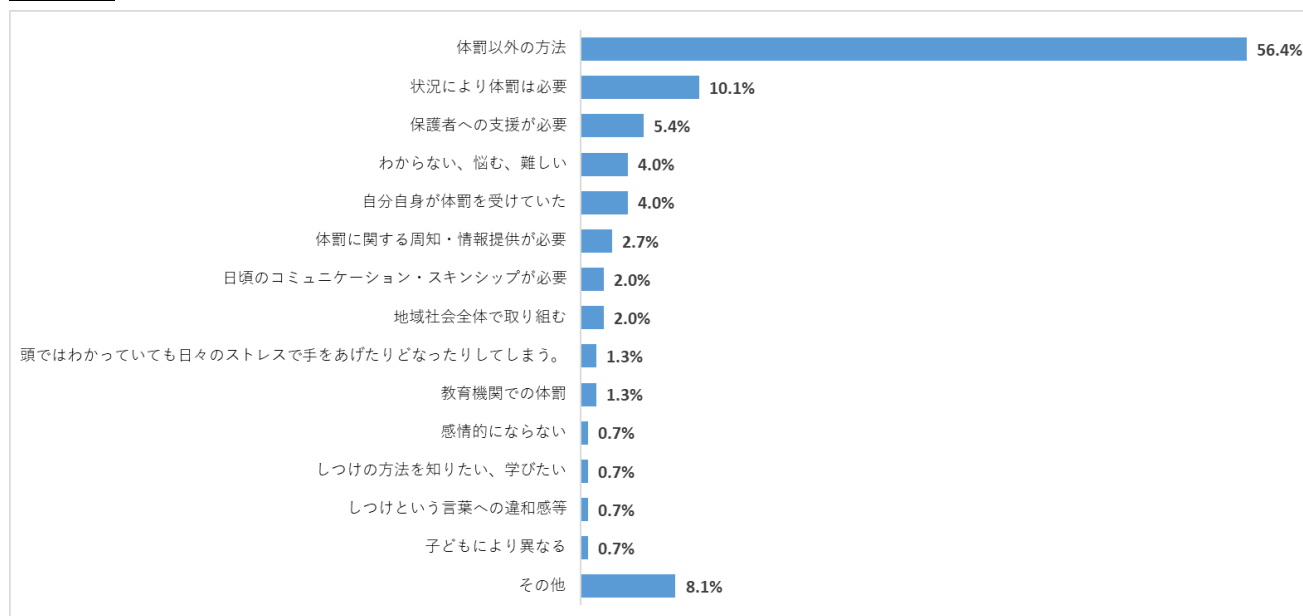
- ・繰り返し言い聞かせることと、子供が指導を受け入れやすくなるよう配慮すること
- ・事前に話しておき、命に関わることはその場で伝える。言葉の理解が出来れば後から振り返って話す。
- ・ダメなことが何故ダメなのか説明する。自分がお手本となりやってみせる 等

「その他」の内容は、以下のとおり（質問の意図と異なる回答や、途中までしか記載がなく意味がくみ取れないものもここに含まれる。）

- ・優しい事ばかりでは、心の強く優しい人間は育たないと思う。
- ・体罰には全面的に反対する！
- ・生きやすい環境
- ・体罰だけでなく、暴言によるしつけがかなり多くあると思う。これらも子どもに多大な影響があると思われる。
- ・社会に出た時や生活面など様々な場面で重要になることについてしつけると考えているため、一概にこうとは言えない。こうしつけなければならない、という親を追い込むような決まった方法はないと思う
- ・子供の家庭内暴力に毎日悩まされています。子供の人権ばかりではなく、家族の生命を守ってほしいです。
- ・親と子どもの関係性と、教員（他者）と子どもの関係性は違うので、それぞれの対応があると思います。
- ・体罰＝暴力という認識でいますが、だったら生徒やその親から教員への暴言暴力等も厳しく罰するべきだと思います。私の時代は先生に怒られる事は「恥」でしたが、生徒や親がなぜ怒られたか理解できていないケースが一定数あります。いつまでも教員側が受け身である必要はありません。
- ・恐れからの行動は長続きしません、指導者への恨みだけが残ります
- ・最近子どもも、学校の先生に対して横柄です。SNS文化でしょうか。子どもたちは、つまらないこと、嫌いなことがフォーカスされて、楽しいことばかり求めているような気がします。暴力や暴言はいけないと思いますが、きちんと叱ることも必要だと思います。
- ・たとえば子どもの頭などを、力を入れずにコツンと叩くことは体罰に当たるのか？
- ・お金や世間についてだと思います。 等

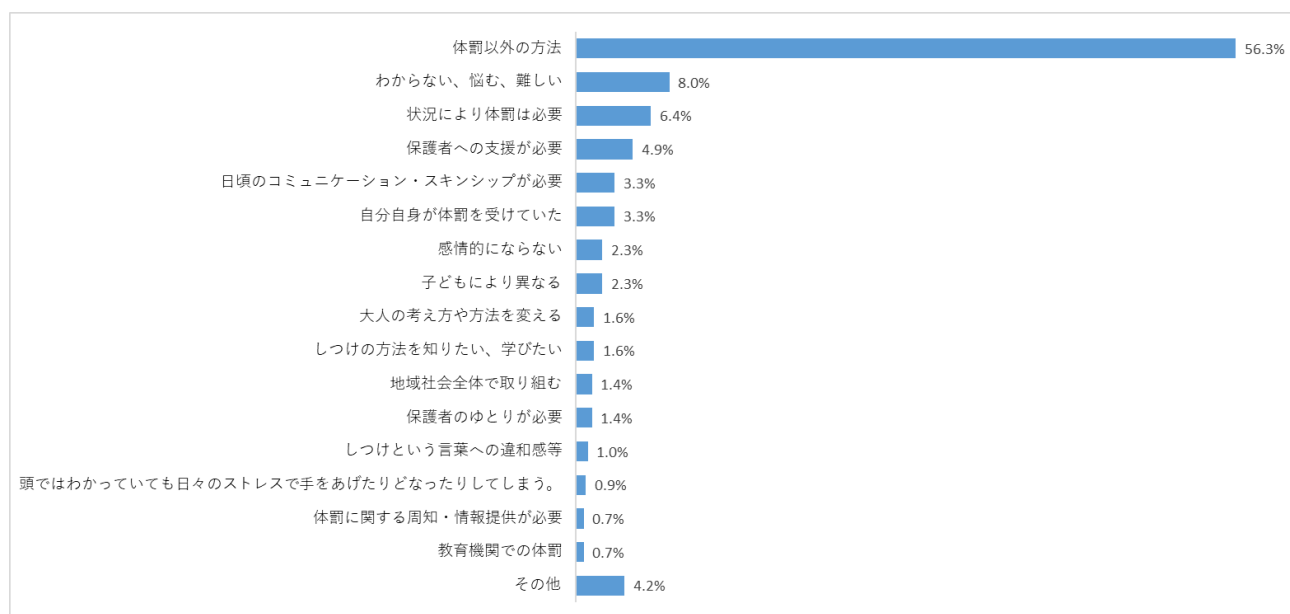
エ 上記イの内容について、性別や年齢別での回答傾向

グラフ 18 男性の回答傾向



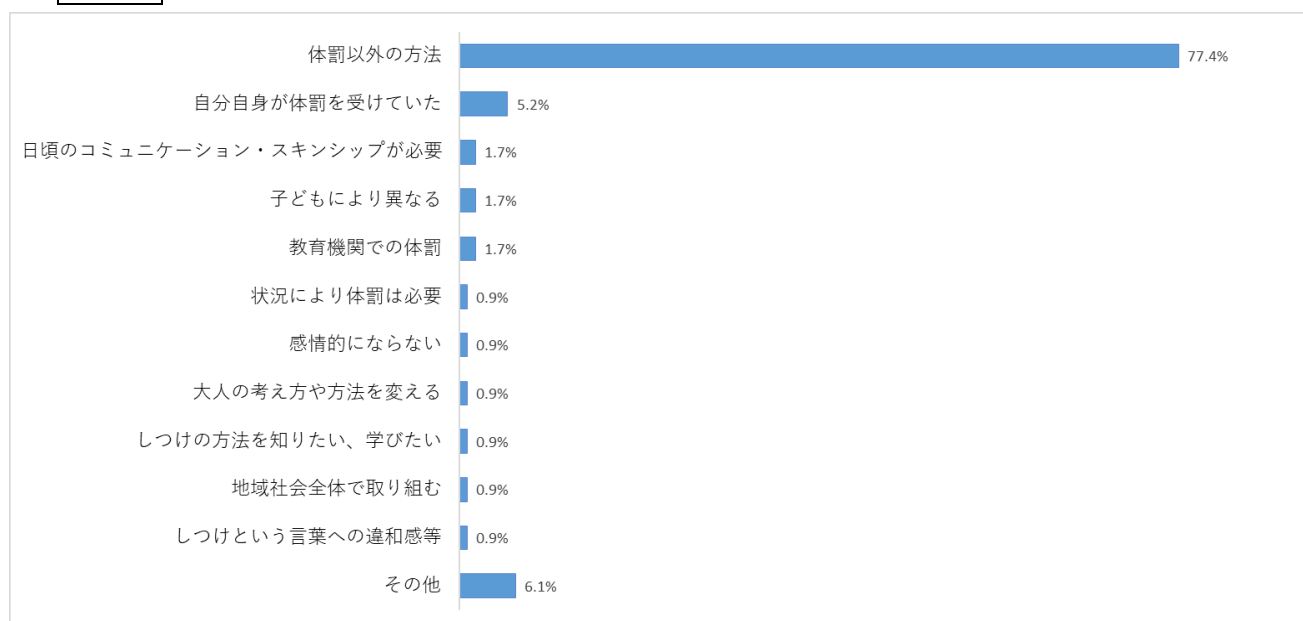
「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「状況により体罰は必要」で、その次が「保護者への支援が必要」であった。（「その他」を除く）

グラフ 19 女性の回答傾向



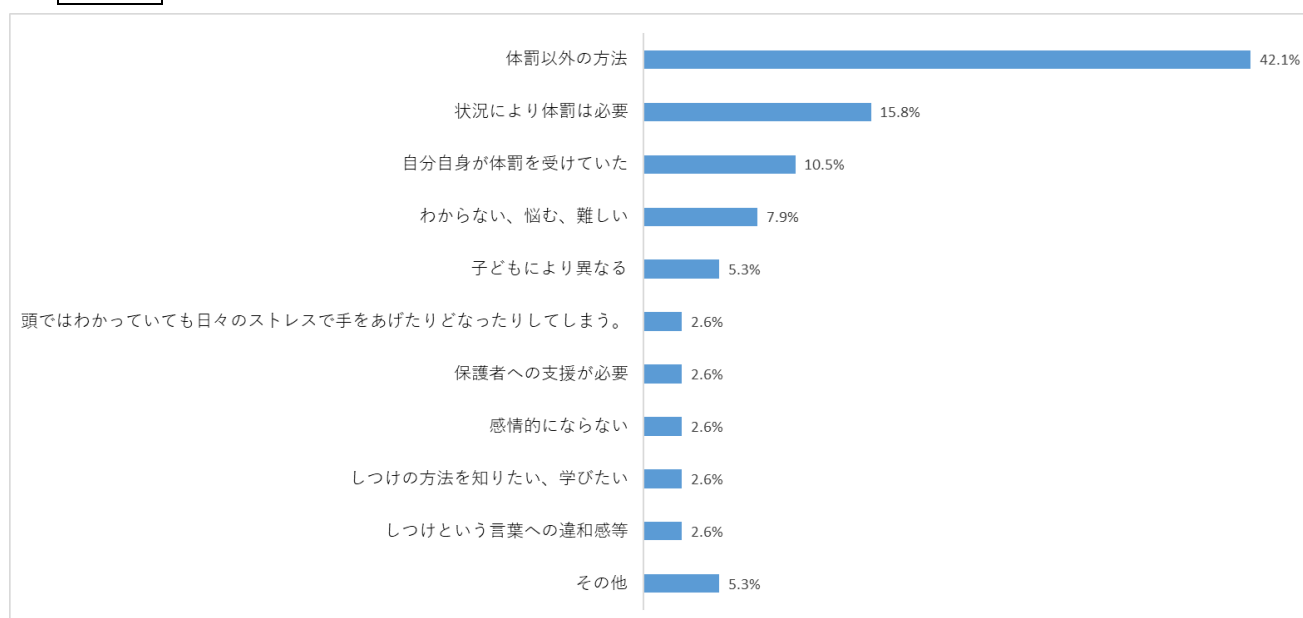
「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「わからない、悩む、難しい」で、その次が「状況により体罰は必要」であった。（「その他」を除く）

グラフ 20 0 歳～19 歳の回答傾向



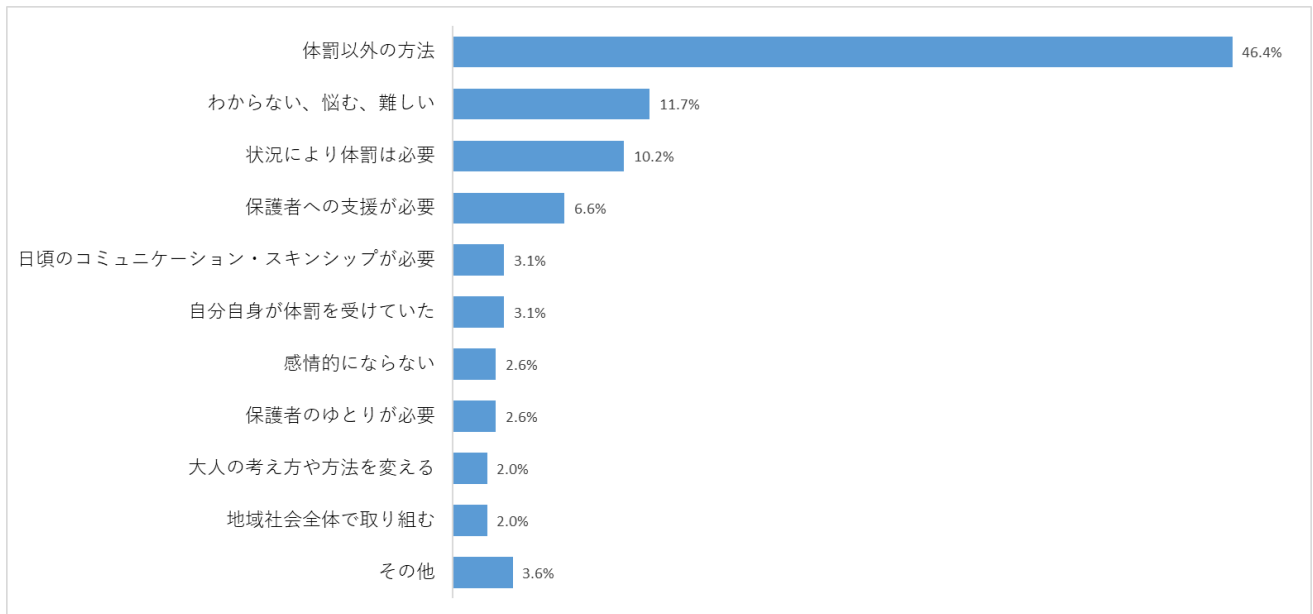
「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「自分自身が体罰を受けていた」で、その次が「日頃のコミュニケーション・スキンシップが必要」「子どもにより異なる」「教育機関での体罰」がそれぞれ同数であった。（「その他」を除く）上記 12 項目以外の内容の回答はなかった。

グラフ 21 20 歳～29 歳の回答傾向



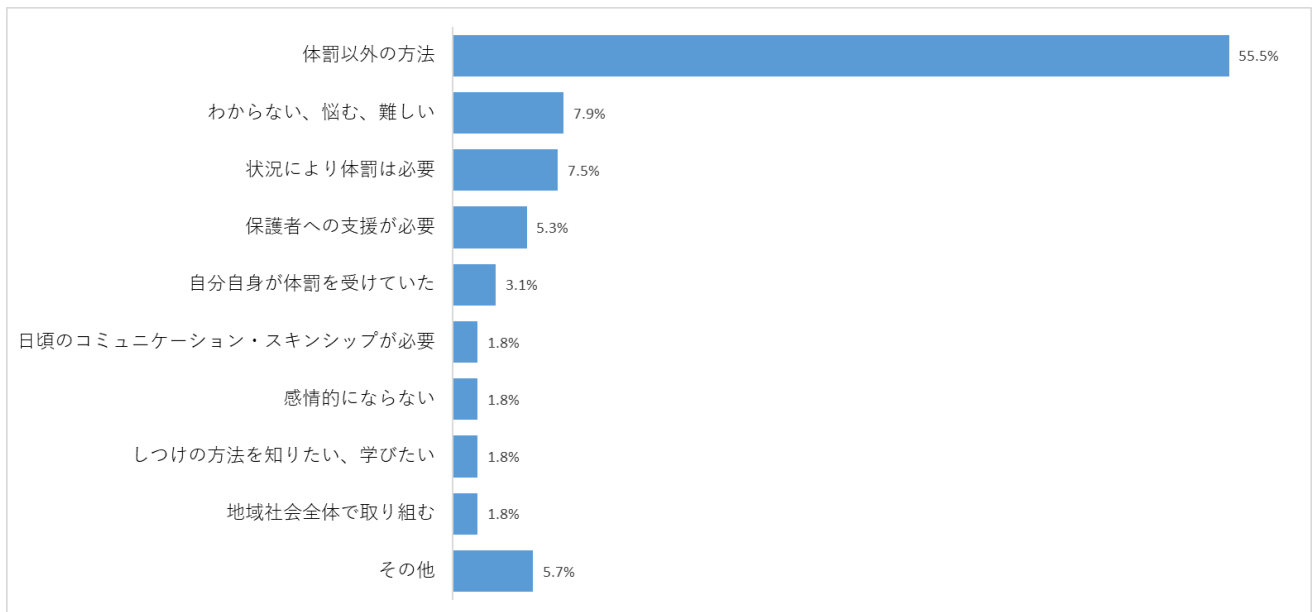
「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「状況により体罰は必要」で、その次が「自分自身が体罰を受けていた」であった。（「その他」を除く）上記 11 項目以外の内容の回答はなかった。

グラフ 22 30 歳～39 歳の回答傾向



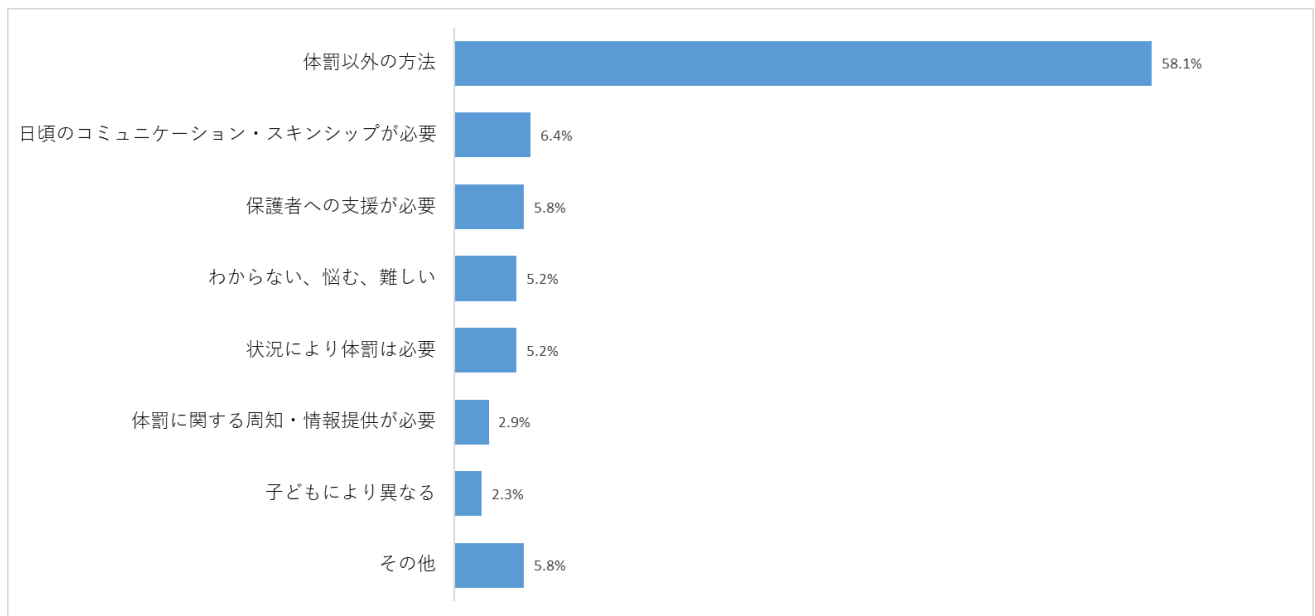
「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「わからない・悩む、難しい」で、その次が「状況により体罰は必要」であった。（「その他」を除く）グラフの 11 項目以外にも、1 % 台のものが複数見られた。

グラフ 23 40 歳～49 歳の回答傾向



「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「わからない・悩む、難しい」で、その次が「状況により体罰は必要」であった。（「その他」を除く）グラフの 10 項目以外にも、1 % 前半台のものが複数見られた。

グラフ 24 50 歳～の回答傾向



「体罰以外の方法」に次いで割合が高かったのは「日頃のコミュニケーション・スキンシップが必要」で、その次に「保護者への支援が必要」であった。（「その他」を除く）グラフの 8 項目以外にも、1 % 前半や 1 % 未満のものが複数見られた。